



ガンバッテいます



津口 清子さん
JAたまな直売所
「いきりめき八田店」
出荷者



佐藤 春生さん
JA阿蘇
アスパラ生産農家

●大玉スイカあります
津口さん宅では米80a、スイカ1300a、メロン19a、カリフラワーとブロッコリーを10a作っています。
スイカは、大玉スイカの「春のだから」の「夏のだんらん」、祭はやし「アファ」、小玉スイカの「ひとりじめ」の合計4種類。メロンは、秋にレイナメロン、冬にアールスメロン

●福岡から来ました
津口さんは農業を始めて32年目になります。実家は福岡県のミカン農家で、JAに勤めながら農繁期等に手伝いをしていました。その後結婚を機に玉名の菊水へ。現在はご主人と二人で農業をされています。

●天候と虫は要注意
「夏は台風と高温に、冬場は霜に悩まされます」といつ津口さん。夏はハウス内が高温にならない様天井を多めに開けます。台風の際はパッカーという留め具で、ビニールが飛ばないようにパイプに固定し、破れている所を塞ぎます。冬は霜でスイカの葉や芽が枯れない様、早めにハウスを閉めます。「タニ」コナジラミ等がつき、葉が枯れてしまわ

の2種類を作っています。
4〜9月はスイカとメロン、11〜12月はブロッコリー、カリフラワーを出荷。大玉スイカは持ちやすいように網袋に、小玉スイカは割れやすいのでネットに入れて出荷します。

●直売所にしよう
津口さんは直売所に出すようになって7〜8年になります。以前はJAや市場にだけ出荷していましたが、物産館等に賣り物に行った時に、自分も出してみようと思ったことがきっかけでした。新鮮な物を出すため、なるべく朝5時から収穫。

ない様消費をまめにすることも大切です」とも教えてくれました。「農業は、良い物を作ろうと頑張れば良い物ができる。喜びもひとしおでありがいのある仕事だと思えます。直売所にも自信のある品物を出荷しているの、売れるとうれしいです」と話してくれました。

●これからの抱負
津口さんはこれからの抱負として、「体が資本なので健康に気を付けていきたい。作付面積を増やしてみたいけど、今の規模でよりよい商品を作るように心がけていきます。また摘果メロンの漬物や腎臓にいいスイカ糖もそのうち出荷してみたいですね。これからも夫婦二人で頑張ります」と話してくれました。

けど、値段を自分でつけられるのが楽しみです」といつ津口さん。あとは皆が商品を置ける様、売り場を広くしてもらいたいです」と付け加えました。

●農業は第2の職場
営農指導員として旧久木野村農協に就職した佐藤さんは、32年間のJA勤務で各種業務に携わり、55歳で早期退職をされました。
元々実家は農家で、水田を1.5ha所有していましたが、小作に出しており退職前10年ほどは、ほとんど農業をやっていませんでした。しかし、退職したら何を考えるか考えていた佐藤さんは、JAの先輩たちが、アス

眼前に雄大な阿蘇山を望む南阿蘇村で、アスパラガス栽培をしている佐藤春生さん（65歳）を取材しました。
佐藤さんはJA職員OBで、就農して10年になります。

●アスパラは竹と同じ
アスパラは5月初旬に苗を定植し、翌年の3月中旬〜10月中旬まで収穫できますが、初年度は50%程度たっています。
アスパラは5月初旬に苗を定植し、翌年の3月中旬〜10月中旬まで収穫できますが、初年度は50%程度たっています。

バラ栽培をしていることを知っていましたので、これなら自分でもできる」と思い取り組んだと言います。
平成16年に、地元の農家7人で11aのハウスでアスパラ栽培をスタートしました。しかし、家から圃場まで少し離れていたこともあり、そのハウスは譲り、3年目に現在の場所にハウスを建設。徐々に規模拡大し、今では40aの圃場に10棟のハウスを建て、佐藤さん夫婦と自衛隊を定年退職した弟さんの3人で農作業にあたっています。

27cmの長さで収穫し、25cmに切り揃えたアスパラは、JAを通じ県内を始め関東・関西方面へ出荷します。佐藤さんは収穫時期が最も忙しいと言いますが、今の時期は午前中3時に降の5〜6時間労働で、日中は休憩しているそうです。そして、「朝食は摂らず1日2食で済みます。かかって身体にいいですよ」と笑っ

の収量とのこと。しかし、永年作物であるアスパラは、収穫が終わると葉が枯れてきますが、根は生きており、春になると新芽が出てきます。竹の子と全く同じで、一度定植すれば30年ぐらいは植え替える必要はない。収穫後は施肥と欠かさず水遣りを行い、枯れた葉を撤去するだけ」と言います。

●好きな言葉
一日一日、楽しく生きる
以前は海釣りが趣味だったと言った佐藤さんは、「毎年、収穫時期が終わった冬場は、あちこち家内と行く旅行が楽しみ」と言います。
「農業は第2の職場でもあり、残された人生を豊かに楽しく生きることをモットーにしている」と語りました。

て話されました。
JA阿蘇アスパラ部会の役員でもある佐藤さんですが、「就農した10年前には約40名だった部会員は倍増し、現在82名になった」と言います。それに伴い阿蘇管内の収量も増えて、県内では他の地域を抜き今ではJA阿蘇が一番とのこと。